

1 子どもたちの姿と学校の状況、地域の実態

子どもたちの姿（学習状況調査等の実態も踏まえて）

- 学区内に公園等の子どもの遊び場があるなど、落ち着いた環境に恵まれ、生き生きと過ごしている。
- 素直な子どもが多く、指導したことが浸透していきやすい。また、友達と相互に関わり合うこともできる。
- 子どもたちは「家庭学習」に、意欲的に取り組んでおり、家庭と学校とで連携しながら学習に取り組むことができる。
- 配慮を要する子どもたちに対しても、それぞれに合った支援が考えられているため、皆が前向きに学習に取り組むことができている。
- 学んだことを活用して課題解決に当たる力や、自分たちで新しいものを創造していく力を高めていく必要がある。

学校の状況、地域の実態

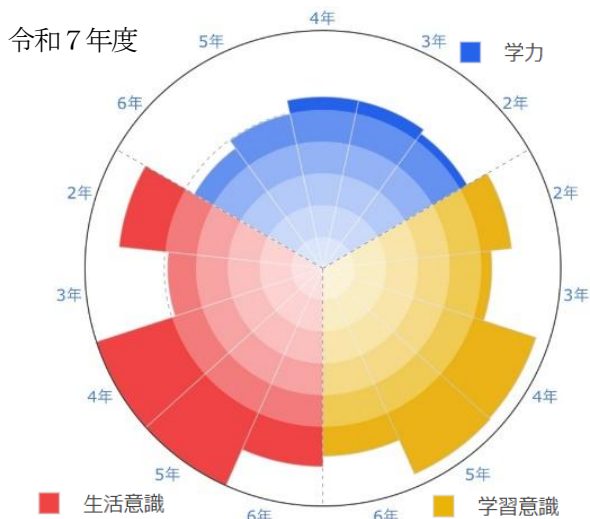
- 職員間の意見交換や交流は活発であり、向上心をもって協働的に職務に当たっている。
- 授業研究にも熱心に取り組み、研究活動の充実のために研修を行っている。
- 6年間を通した学びの高まりを意識し、家庭学習の内容を職員で共有し、学びの定着を図ることに力を入れている。
- 地域の中に子どもたちが安心して遊べる公園や、市体育協会登録団体である、総合型地域スポーツクラブがあり、多くの子どもたちが校内外で関わり合っている。
- 地域には豊かな経験や知識をもった方が多くおり、子どもたちを温かく見守ってくれる環境となっている。

2 中期学校経営方針を受けて、今後の方針

- 「子どもたちが、自分の育ちを実感できる学校」の実現に向かって、全職員で次の目標に取り組みます。
 - ・子どもたち一人ひとりのよさを理解し、心を通い合わせながら、安心して過ごせる学校生活づくり、居場所づくりを進めます。
 - ・子どもが意欲をもって学習活動に取り組み、学び方を身に付け、「できた」「わかった」という達成感を味わえる授業をします。
 - ・子ども同士のつながりを深める学級活動、異年齢集団活動、児童会活動を工夫して行い、よりよい人間関係を築きます。
 - ・中学校ブロックや家庭・地域・関係機関との連携を深め、社会の要請や信頼に応える教職員集団を目指します。
 - ・効率的な学校運営を実現するために、人材育成、組織運営の改善、業務改善、働き方改革を実行します。

3 令和7年度の横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



全体として学習と生活どちらも大切だという意識が高く、意欲的に学んでいる。令和6年度と比べ学力がわずかに伸びており、学習意識の高さが学力の伸びを支えている。さらに伝え合う力を育成するため自分の思いを持ち、周りに発信していけるようにしたい。

(2) 学年ごとの学習の状況

※1年生は、実施していません。

- 第2学年 国語では、説明的な文章の読解が市の平均を超えているが、文学的な文章の読解は市の平均ほどである。算数では、平面図形の理解が大きく市の平均を超えており空間図形、式、数の理解も比較的できているが統計の理解に課題がある。
- 第3学年 国語では、文学的な文章と説明的な文章の読解とともに正しい内容を読み取ることができている。正答率も市の平均より高い。算数では、式や数が意味する場面や統計の意味をよく捉えており、市の平均を超えているが、空間図形、平面図形の理解に課題がある。
- 第4学年 国語では、文学的な文章の読解と情報活用能力が市の平均を超えているが、説明的な文章の読解の中でも修飾関係を理解することに課題がある。算数では、空間図形の理解が市の平均を超えており、平面図形、数、式の理解に課題がある。
- 第5学年 国語では、文学的な文章の読解が市の平均を超えているが、説明的な文章の読解、情報活用能力に課題がある。算数では、式、平面図形、統計の理解が市の平均を超えているが、数、空間図形、関数の理解に課題がある。
- 第6学年 国語では、文学的な文章の読解が市の平均を超えている。特に、登場人物の気持ちや性格を具体的に捉えられている。一方で、説明的な文章の読解に課題がある。算数では、数、関数の理解が市の平均を超えているが、式、平面図形の理解に課題がある。

4 令和8年度 目標と具体的方策も

令和8年度 目標

学び合い ひびき合い 高め合う 中丸の子をめざして
～ 子どもの姿を見取り 深める 学びづくり ～

(1) 学校組織としての共通の取組

- ☆ 子どもたちの学力向上に向けて ☆
- 1 基礎力を維持向上させる取り組みを行う。
家庭との連携をはかる。
 - 2 単元間、学年間、他教科などとの関連性・系統性を意識した授業作りを行う。
 - 3 「伝え合う力」を育成するため、授業内で関わり合いの場面をつくる。
子どもの思いや願いが生まれる場の設定をする。
 - 4 誰にとっても分かりやすく、安心して学習できる環境をつくる。
目指す姿をより明確にし、その達成のために子どもの実態を見極めた具体的な手立てをうつようにする。

- ☆ 授業力向上に向けて ☆
～教員の授業力向上や
相互に支え合う組織を目指して～
- 学校や地域の特徴を生かした、全体で取り組む重点研究会、年次研修研究授業、指導法情報交換会
 - 小・中・高学年各ブロックの研究会、学年研究会
 - 若年層職員による企画で開かれる学習会・メンターチーム「中丸塾」

(2) 学年・教科等としての取組

各学年の実態に合わせたキーワードを軸とした学習活動の展開

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、主に教科書を活用して継続して学習することで、着実に基礎学力を付ける。
- 学習進度の似ている児童の小グループを設定し、一緒に学習する時間を設けることで、考えを伝え合う場面を増やす。
- 学習の流れを示したり、取り組みたくなる単元を設定したりすることで主体的に学習に取り組めるようにする。
- 栽培や他学年との交流をはじめとした体験的な学習における成功体験を積み重ねる中で、自己肯定感を高められるようにする。

1 学年

- 基礎学力(読む、書く、計算等)を丁寧に反復指導し、朝学習や家庭学習などを活用し、定着を図る。
- 生活科を中心に教科間の関連付けを工夫するなど、自分なりの思いや願いをもって学習に臨み、友達や身近な人と関わり、伝え合い、人間関係が豊かに広がる学習環境を整える。
- 分かりやすい短い指示や、視覚支援の工夫を心がけることで、活動の見通しをもち、疑問や気付きを広げ、考えながら学習に取り組もうとする態度を育てる。

2 学年

- 基礎学力(読む、書く、計算等)を丁寧に反復指導し、定着を図るとともに、家庭と連携しながら普段の生活の中でも既習事項(時刻と時間・長さ等)と関連付けた理解の定着を図る。
- 関わり合いを生むような学習場面を設定し、自分の思いを伝えたり、相手の話をしっかり聞いたりする中で、互いに学び、認め合えるようにする。
- 身近な問題の解決に向かって、自分の思いや願いをもち追究する意欲や態度を育てる。

3 学年

- 基礎学力(読む、書く、計算等)を丁寧に反復指導し、定着を図るとともに、後期からは自主学習を通して、自分で課題を見つけ、それを解決しようとする態度を育てる。
- 子ども同士の学び合いの場面を意図的に設定し、伝え、聴き合い、話し合う中で言語活動をより充実させ、互いに学び、認め合えるようにする。
- 体験的な活動を設定し、身の周りの事象に興味をもち、進んで調べたり、調べたことを表現したりする力を育てる。

4 学年

- 学習のつながりを明確にし、振り返りを行い、学んだことを感じられるよう指導する。自主学習では自分に合った課題を選択して、意欲的に学習に取り組む態度を育てる。
- 話し合いなどの言語活動を充実させ、共通点や相違点に着目しながら聞いたり、分かりやすい理由や事例を挙げながら話の中心が明確になるように伝えたりする力を育てる。
- 体験的な活動の機会を確保し、そこから得た学びを生活の中で関連付け、活用する力を育てる。

5 学年

- 学習のつながりを明確にし、振り返りを大切にしながら自分の力の伸びを感じられるよう指導する。家庭と連携し、学んだことを反復し定着を図り、自主学習で自分に合った課題を設定して、意欲的に学習に取り組む態度を育てる。
- 話し合いなどの言語活動を充実させ、共通点や相違点に着目しながら聞いたり、根拠や話の中心が明確になるように考えを書いたり、伝えたりする力を育てる。
- 体験的な活動の機会を確保し、そこから得た学びを生活の中で関連付け、日常に生かそうとする態度を育てる。

6 学年

- 学習を生活と結び付け、主体的に学習に取り組む態度を育てる。自分に合う課題を進んで設定し、力を伸ばすことができるようにする。
- 言語活動を充実させ、相手の考えを受け止めること、自分の考えを書いたり話したりすることで伝え合う力を高める。また、目的や条件を明確にし、相手意識をもった伝え方、考え方ができるようにする。
- 体験的な活動の機会を確保し、日々の学習や生活と関連付けて考え、より広い見方や考え方ができる力を育てる。